

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

愛知教育大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	.....	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	.....	5
《本文》	.....	7
《判定結果一覧表》	.....	15

## 法人の特徴

### 大学の基本的な目標（中期目標前文）

愛知教育大学は、「愛知教育大学憲章」を踏まえ、教員養成を主軸に教養教育を重視する大学として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、大学の自治の基本理念に基づき、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努めることを目的として、以下の目標を掲げる。

- ① 学士課程教育においては優れた教養教育を実現し、教員養成課程では、愛知教育大学が養成すべき教員像の下に、体系的教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う専門職業人としての教員の養成をめざす。現代学芸課程では、専門基礎教育を基礎に、中高教員を含む幅広い職業人の育成をめざす。
- ② 大学院課程教育においては、教育学研究科では、学校教育に必要な高度専門職業人（教員）の養成を柱に、学芸諸分野の有為な人材の育成をめざす。教育実践研究科では、学校教育に関わる理論と実践の融合を基本に、実践的指導力や学級・学校経営力を備えた高度専門職業人（教員）の養成をめざす。
- ③ 愛知教育大学は、教育大学の特性を活かし、教育諸科学をはじめ、多様な学術研究分野及び教育実践分野において、優れた研究成果を生み出し、学術と文化の創造及び発展に貢献し、これらの成果を地域社会へ還元するとともに、国際化を推進し、特色ある大学を創造する。

これらの目標の達成に向け、当面する6年間の対応として、県内出身者が80%を超える愛知教育大学にあっては、県内出生数の変化及び教員養成政策の動向等を踏まえ、教育研究の質の向上に努めるとともに、時代や社会の要請に応えうる組織整備を行う。

### 1 沿革

本学は、昭和24年に愛知第一師範学校・愛知第二師範学校・愛知青年師範学校の3校を包括して、愛知学芸大学として発足した。昭和41年愛知教育大学と名称を変更し、昭和53年大学院教育学研究科修士課程、平成20年教育実践研究科教職専攻、平成24年静岡大学との共同で教育学研究科後期3年博士課程共同教科開発学専攻を発足した。なお、教育学部は昭和62年教員養成課程を再編成し総合科学課程を設置し、平成12年教員養成4課程と学芸4課程に改組し、平成19年には学芸4課程を現代学芸課程に改組し、現在に至る。

### 2 教育学部の特徴

教員養成課程では、多様な教員養成プログラムを通し、教職と各教科の専門性をもち、個性豊かな教員を養成し、幅広い教育分野や学校種で活躍できる人材の育成を図っている。その結果、教員就職率は70%を超え、全国でもトップレベルを維持している。現代学芸課程は専門基礎教育を重視しつつ、科学技術の高度化への対応及び社会の複雑性の理解と問題解決のための複眼的視野の創造を目指すことにより、広く地域社会の発展に貢献する人材育成を図っている。

### 3 教育学研究科の特徴

修士課程では多様な教育現場のニーズに対応するために発達教育科学専攻をはじめ13専攻を設置し、学校教育に関わる理論的、実践的な研究と教育を行うことで、学校をはじめ教育に関する様々な分野で活躍する人材養成を行っている。後期3年博士課程では教科専門と教科教育、教職専門を有機的に融合させた独自の学問分野として教科開発学を設定し、学校教育が抱える複雑・多様化した諸課題に対応した研究を、静岡大学との共同で行っている。

## 4 教育実践研究科の特徴

学校教育に関わる理論と実践の融合・往還を基本とし、実践的指導力を備えた教員をめざす主に学部直進者対象の〈教職実践基礎領域〉と、ミドル・リーダー育成をめざす現職教員対象の〈教職実践応用領域〉を設けている。実務家教員として専任教員、校長経験者ほか多様な経験を持つ教員を設置基準より多く配置し、授業や実習指導を研究者教員と実務家教員による T・T 方式で行っている。

## 5 特別運営費交付金等に対応した教育研究事業

特別運営費交付金等による共同プロジェクト研究は、第2期中期目標期間中17件が採択されている。小・中学校教育に関わる事業として、「科学・ものづくり教育推進に関する拠点づくりの取り組み」(H21～H24)、「小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革」(H22～H25)、「教員養成大学と理工系学部、教育センターの連携による CST 活動プログラムの構築と実践」(H22～H25)、大学教育に関する事業として「学習指導案データベース化を軸とする教育実習支援システムの構築」(H23～H26)、「教員養成キャリアと教員の資質能力との関係に関する調査研究」(H24～H26)、「教員養成系大学の特徴を活かしたリベラル・アーツ型教育の展開」(H23～H26)、「グローバル人材育成を主軸とした教員養成等プログラムの開発」(H26～H27)、現代的教育課題に関連する事業として「教育委員会との連携による外国人児童生徒のための教材開発と学習支援」(H20～H22)、「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築」(H23～H25)、「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業」(発達障害に関する教職員養成プログラム開発事業：H25～H27、発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業：H26～H27、発達障害理解推進拠点事業：H26～H27)、学術研究機能に関して「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」(H23～H26)、大学間連携事業として「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」(H24～H28)、「大学間連携による教員養成の高度化システムの構築－教員養成ルネッサンス・HATO プロジェクト」(H24～H29)、「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」(H24～H29)、教育委員会との連携事業として「学び続ける教員像」の確立に向けた研修体制・研修プログラムの開発」(H27)に取り組んでいる。

### [個性の伸長に向けた取組]

#### 1) 共同大学院後期3年博士課程の設置

静岡大学との共同大学院博士課程は教員養成大学間における全国初の試みであり、従来の連合大学院にはない新たな、「教科学」と「教育環境学」とを統合した「教科開発学」を内容とした個性ある専攻として設置されている。

(関連する中期計画) 計画1-2-2-1

#### 2) 教職大学院におけるフォローアップ研修等の修了生支援の取り組み

平成24年度から教職大学院修了生を対象としたフォローアップ研修会(講演、実践発表、グループ討議、ワークショップなど)を毎年開催している。授業改善のための修了生によるフィードバックの場、学校現場での課題や新たな教育課題を把握する場となっている。また、メールマガジンを定期配信し、学校現場で活用できる情報などの提供を行っている。

(関連する中期計画) 計画1-1-5-2

#### 3) 科学・ものづくり教育と、外国人児童生徒支援への取り組み・特別支援(ミッションの再定義・HATO, プロジェクト経費)

愛知県にある教育大学として、特に科学・ものづくり教育、外国人児童生徒のための教育、特別支援のための教育等の推進など、個性化を進めるための教育プログラムを構築してきた。とりわけ、ミッションの再定義を受け、第3期中期目標期間に向けて導入を決めた「教師教養科目」には特別支援と外国人児童生徒理解のための必修科目を設定した。また特別運営費交付金等の外部資金により、理科離れ、外国人児童生徒支援、特別支援教育等の教育現場が直面する教育課題に取り組んできた。科学・ものづくり教育推進センター

は訪問科学実験などを継続して開催し、地域の子ども達への支援を行ってきた。地域連携センターは近隣市教育委員会と連携した外国人児童生徒の学習支援事業も行ってきた。

(関連する中期計画) 計画 1-2-3-2

#### 4) 教員就職率の維持・向上のための支援

全国トップレベルにある教員養成課程新規学卒者の教員就職率の維持・向上のため、教員採用試験に係る面接指導や小論文添削指導などの指導員の増員、3年生を中心に低学年からの支援強化のための校長経験者の配置増など、支援体制を強化することで、愛知県及び名古屋市の教員採用試験については、第2期中期目標期間初めと最終年度を比較して県内教員の合格者数はほぼ維持し、合格率については9.5ポイント上昇した。

(関連する中期計画) 計画 1-3-3-1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

「東日本大震災」の被災地を支援するため、本学では緊急物資の輸送、復興支援募金の寄付活動などを行った。さらに、宮城教育大学の派遣依頼を受け、平成23年度より毎年度、休業期間に学生ボランティアを派遣し被災地の児童生徒の教育支援を行った。

年度	派遣地域	派遣回数	派遣人数
H23	南三陸町, 気仙沼市, 岩沼市	4回	18人
H24	仙台市, 南三陸町, 大崎市	4回	44人
H25	大崎市, 南三陸町	3回	19人
H26	大崎市, 南三陸町	3回	14人
H27	名取市, 南三陸町	2回	10人
計		16回	105人



## 評価結果

### 《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、愛知教育大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
<b>(Ⅰ) 教育に関する目標</b>	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			5	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	3	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			4	
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好			1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	1	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>	良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	良好		1		
② 国際化に関する目標	良好		1		

### ＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 平成 24 年度から国立教員養成系単科大学のうち北海道教育大学（H）、愛知教育大学（A）、東京学芸大学（T）及び大阪教育大学（O）の 4 大学で、大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築（教員養成ルネッサンス・HATO プロジェクト）を実施している。HATO プロジェクト推進のため、4 大学による教員養成開発連携機構を設立し、各大学には教員養成開発連携センターを設置し、3 部門・全 16 プロジェクトの事業を遂行している。各大学の教育研究の特性を活かして推進する先導的実践プログラム、特別プロジェクトでは、愛知教育大学が中心的な活動拠点として理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト、特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト、外国人児童生徒学習支援プロジェクト及び教員の魅力を探るプロジェクトを実施している。理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクトでは、近隣の市町村への出前授業や 4 大学による科学・ものづくりフェスタを開催するなど、コンソーシアムの設立に取り組んでいる。（中期計画 1-2-3-2）

### 注目すべき取組

- 科学・ものづくり教育推進センターを中心に、教員と学生の協働による訪問科学実験、ものづくり教室及び科学・ものづくりフェスタを継続して開催し、地域の子どもたちに科学実験やものづくりの楽しさを体験する機会を提供している。地域連携センター主催により、地域連携フォーラムを毎年度開催しており、近隣市教育委員会と連携した外国人児童生徒の学習支援事業や学生の課外活動等、地域や企業との連携の状況等を広く情報発信するとともに、教育委員会、企業及び地域の関係者と大学の地域貢献のあり方等についての協議を行っている。平成 27 年度は教員養成大学における企業連携の可能性をテーマにフォーラムを開催し、59 名が参加している。（中期計画 3-1-1-2）

### ＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 「東日本大震災」の被災地を支援するため、愛知教育大学では緊急物資の輸送、復興支援募金の寄付活動などを行った。さらに、宮城教育大学の派遣依頼を受け、平成 23 年度より毎年度、休業期間に学生ボランティアを派遣し被災地の児童生徒の教育支援を行った。



## 《本文》

### (I) 教育に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (特色ある点)

##### ○教職大学院修了生へのフォローアップの取組

中期目標（小項目）「教育の成果に関する目標 学士課程や大学院課程における教育が、将来的にどう活かされているのか、また活かされることが保障できるよう、継続的に教育の成果について検証を行う。」について、平成24年度から大学院教育実践研究科（教職大学院）修了生が実践発表を通して教育現場における課題提起を行うフォローアップ研修を実施している。毎年度約50名の修了生が参加しており、教職大学院担当教員が指導と助言を行うことで、さらに高い見識を与える場となっている。また教員となった修了生への継続的支援として、学校現場で活用できる情報の提供や教職大学院における教育研究活動等の状況を知らせる電子メールマガジンを定期配信している。（中期計画 1-1-5-2）

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○4 大学連携による先導的実践プログラムの実施

中期目標(小項目)「教育の質的改善のためのシステム等に関する目標 教育の質的改善を図るため、授業改善を推進する実施体制を構築する。」について、平成24年度から国立教員養成系単科大学のうち北海道教育大学(H)、愛知教育大学(A)、東京学芸大学(T)及び大阪教育大学(O)の4大学で、大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築(教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト)を実施している。HATOプロジェクト推進のため、4大学による教員養成開発連携機構を設立し、各大学には教員養成開発連携センターを設置し、3部門・全16プロジェクトの事業を遂行している。各大学の教育研究の特性を活かして推進する先導的実践プログラム、特別プロジェクトでは、愛知教育大学が中心的な活動拠点として理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト、特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト、外国人児童生徒学習支援プロジェクト及び教員の魅力を探るプロジェクトを実施している。理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクトでは、近隣の市町村への出前授業や4大学による科学・ものづくりフェスタを開催するなど、コンソーシアムの設立に取り組んでいる。(中期計画1-2-3-2)

**(特色ある点)**

## ○静岡大学との共同教科開発学専攻の設置

中期目標（小項目）「教育組織・教育環境の整備に関する目標 愛知教育大学の特性が一層活かされるための教育組織の整備を進めるとともに、学習活動を支援するため、環境・施設・設備の一層の充実を図り、学習環境を整備する。」について、平成 24 年度に静岡大学との共同で共同教科開発学専攻を設置し、教科学と教育環境学を統合した教科開発学を実践するなどしており、教育学研究科修士課程との接続とともに教職大学院との連続性・系統性のある科目設定としている。平成 26 年度に教育未来館を新築し、それまで分散していた博士課程の教育・研究機能の場を集中化し、環境の整備に取り組んでいる。（中期計画 1-2-2-1）

**(3) 学生への支援に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

**<特記すべき点>****(優れた点)**

## ○学習支援環境の整備

中期目標（小項目）「学習支援に関する目標 学生が高い学力を習得し、併せて、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク等の社会人としての基盤となる資質・能力を養うため、学習支援を組織化する。」について、平成 25 年度から「初年次演習」科目を導入し、平成 26 年度から教務ガイダンスの実施方法の見直しを行っている。また、オフィスアワーを活用するための取組として専攻別新生ガイダンスへの専攻教員の全員参加、教員の電子メールアドレス・オフィスアワー一覧の配付等に努めており、オフィスアワーの認知度は、平成 23 年度の 40%から平成 27 年度の 72%へ向上している。（中期計画 1-3-1-2）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○多様な学問分野における研究活動の推進

中期目標(小項目)「愛知教育大学の特性を活かし、それぞれの教員が独創的で優れた研究成果を生み出し、多様な学術研究機能の充実に図り、特に、教育現場が直面する諸問題の解決に寄与できる先進的な研究を推進し、それらの成果を社会へ還元する。」について、教育科学をはじめ、人文、社会、自然、芸術、保健体育、家政、技術分野の諸科学及び教育実践分野等、多様な学問分野で研究活動を行っている。第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)に科学研究費助成事業に採択された研究テーマは、教員養成のみならず教養教育の基盤となる幅広い学問分野にわたっている。また、論文、発表、実技及び作品等の教員一人当たりの研究業績数は、平成23年度の2.6件から平成27年度の3.4件へ増加している。(中期計画2-1-1-1)

- 教育学部・教育学研究科における外国人児童生徒の学習支援プロジェクトの推進  
教育学部・教育学研究科において、平成 17 年度に始まった「外国人児童生徒のための教材開発と学習支援」事業は、平成 23 年度には「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築」事業として、さらに、平成 26 年度からは北海道教育大学、東京学芸大学、大阪教育大学との連携による HATO プロジェクト内の先導的取組の一つとして継続、発展的に活動を展開している。

(現況分析結果)

- 教育学部・教育学研究科における地域の学校との連携による調査の実施  
教育学部・教育学研究科において、日本語指導が必要な児童生徒が多く在籍している地域の特性を踏まえ、外国人児童生徒の履修の問題についての調査・研究を実施するとともに、外国人児童生徒に対する支援活動を行っているほか、地域の学校と連携し、学校生活理解に必要な基本語彙調査、算数理解に必要な語彙調査、教材開発や指導方法の提案のための調査を実施している。(現況分析結果)

## (2) 研究実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### <特記すべき点>

#### (優れた点)

- 研究資金の重点的、弾力的な配分による研究の活性化  
中期目標(小項目)「研究環境の整備に関する目標 大講座制の利点が有効に機能するように、全学的見地から研究資金の配分を行う。研究設備等に関しては、その充実に努めるとともに、学内資産の効率的な活用を推進する。」について、大きな成果が見込まれる研究課題やプロジェクト研究について、学長裁量経費及び大学教育研究重点配分経費により学内研究資金の重点的、弾力的な配分を行い、研究の活性化に取り組んでいる。平成 27 年度に採択した発達障害理解推進ミュージカル等、第 2 期中期目標期間に 69 件を助成している。大型設備等共同利用推進委員会を平成 27 年度に設置し、現有設備の調査を実施するなど、全学的な設備等の共同利用体制を構築している。(中期計画 2-2-1-1)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○自治体、教育委員会との連携協力の強化

中期目標(小項目)「県内の教育関係機関等との連携協力を維持・発展させるとともに、愛知県の中でも西三河地域を拠点とする国立大学として、幅広い研究分野を有する愛知教育大学の特性を活かした社会貢献を実施し、地域社会の要請に応える。」について、第2期中期目標期間に近隣の4市(知立市、安城市、みよし市、豊明市)との包括協定、2市の教育委員会(碧南市、高浜市)との連携に関する覚書を新たに締結し、平成24年度から連携公開講座や当該市教育委員会の担当者との連絡会議を開催するなど、連携協力を強化している。近隣市、教育委員会との連携の下、特別支援教育、外国人児童生徒のための学習支援事業等に取り組んでおり、平成22年度に愛知県総合教育センターとの連携により現職教員を対象とした10年経験者研修等を実施している。(中期計画3-1-1-1)

○地域貢献事業の推進

中期目標(小項目)「県内の教育関係機関等との連携協力を維持・発展させるとともに、愛知県の中でも西三河地域を拠点とする国立大学として、幅広い研究分野を有する愛知教育大学の特性を活かした社会貢献を実施し、地域社会の要請に応える。」について、科学・ものづくり教育推進センターを中心に、教員と学生の協働による訪問科学実験、ものづくり教室及び科学・ものづくりフェスタを継続して開催し、地域の子どもたちに科学実験やものづくりの楽しさを体験する

機会を提供している。地域連携センター主催により、地域連携フォーラムを毎年度開催しており、近隣市教育委員会と連携した外国人児童生徒の学習支援事業や学生の課外活動等、地域や企業との連携の状況等を広く情報発信するとともに、教育委員会、企業及び地域の関係者と大学の地域貢献のあり方等についての協議を行っている。平成 27 年度は教員養成大学における企業連携の可能性をテーマにフォーラムを開催し、59 名が参加している。（中期計画 3-1-1-2）

## （２）国際化に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### （優れた点）

#### ○海外大学等との国際交流の推進

中期目標（小項目）「国際社会に開かれた大学として、国外の高等教育機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受入及び派遣を通してアジア地域をはじめ世界の教育と文化的発展に貢献するなど国際化を積極的に進める。」について、第 2 期中期目標期間に中国、韓国、台湾、ブラジル、カンボジア及びモンゴルの 8 大学・機関と新たに国際学術交流協定を締結し、22 校（13 か国）に増加している。国際学術交流協定校から研究者や職員を招へいするプログラムを実施し、南京師範大学（中国）、国立スラバヤ大学（インドネシア）等 6 か国より 34 名（研究者 30 名、事務職員 4 名）を招へいし、2、3 か月間の共同研究・研修を行うなど国際化への取組を推進している。また、名古屋大学、三重大学と連携しアジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進事業を実施しており、国立教育研究所（カンボジア）から延べ 4 名の研修員を受け入れるとともに、現地調査団を派遣し、子どもの発育調査に取り組んでいる。平成 27 年度に 3 大学及び国際協力機構（JICA）との連携による国際協力ワークショップを開催し、公益財団法人と共催によるカンボジア小学校教員養成校における教材開発オープンセミナーを実施している。（中期計画 3-2-1-2）

(特色ある点)

○外国人留学生の受入促進

中期目標（小項目）「国際社会に開かれた大学として、国外の高等教育機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受入及び派遣を通してアジア地域をはじめ世界の教育と文化的発展に貢献するなど国際化を積極的に進める。」について、外国人学生の受入促進のために、学部では外国人留学生入試を、大学院では外国人学生特別選抜を実施し、海外協定校から交換留学生（特別聴講学生）プログラムや平成 24 年度から実施しているサマースクール等による留学生の受入に取り組んでいる。これらの取組により、第 2 期中期目標期間における留学生受入数は年度平均で 109 名となっている。派遣留学生に対する支援・留学促進のための取組として、毎月、生活状況報告を提出させ、カウンセリングを行っているほか、大学独自の基金等による経済支援を行っている。（中期計画 3-2-1-1）



《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
<p>アドミッションポリシーに関する目標 愛知教育大学の理念及び教育目的を踏まえ、学士課程では教員養成課程及び現代学芸課程ごとに、大学院課程では教育学研究科及び教育実践研究科ごとに、アドミッションポリシーを明示し、学士課程においては広く教育に関わる課題及び現代的課題に関心と意欲のある優れた学生を、大学院課程においては教育科学をはじめ専門的学術や実践的指導力に関する基礎・基本的な資質・能力を有し、課題意識を有する学生、現職教員などの社会人及び留学生を積極的に受け入れる。</p>		おおむね良好	
1-1-1-1	学士課程における教員養成課程と現代学芸課程、大学院課程における教育学研究科と教育実践研究科のアドミッションポリシーを策定又は見直しし明示する。	おおむね良好	
1-1-1-2	優れた資質・能力を持つ学生を確保するため、学士課程においては、受験者の能力・適性など多面的に評価できる入試方法等の見直しや様々な広報活動を通して受験者増を図る。また、大学院課程においては、学部直進者及び現職教員・社会人それぞれに対応した志願者増のための入試方法等の見直しや広報活動を展開する。	おおむね良好	
1-1-1-3	より分かりやすく的確な情報提供を行うため、受験案内を充実するとともに、多くの国からの留学生に対応するため、複数の言語による受験案内用のWebサイトを充実する。	おおむね良好	
<p>教育課程に関する目標 愛知教育大学が養成する学士課程及び大学院課程における特色ある「学生像」及び「養成すべき教員像」を明確に示し、その実現を図るため教育課程の一層の充実及び体系化を進める。</p>		おおむね良好	
1-1-2-1	学士課程においては、愛知教育大学の特性を活かし教育科学、教養教育、幅広い専門教育を強化しそれぞれの関連性を深め、「学士力」を保証するため、教員養成課程では、教育科学、教科教育及び教科専門間での連携を強化するなど体系的・計画的教員養成プログラムを構築する。また、現代学芸課程では、リベラルアーツ教育を展開し、専門基礎教育の充実と国際通用性をめざす教育課程全体の点検と必要に応じた見直しを行う。愛知県にある教育大学として、特に科学・ものづくり教育、外国人児童生徒のための教育、特別支援のための教育等の推進など、個性化を進めるための教育プログラムを構築する。	おおむね良好	
1-1-2-2	大学院課程においては、高度専門職業人として教員の専門性と自律性の確立をめざした教育課程の体系化を図る中で、履修カウンセリング等を取り入れ、多様な学習歴を踏まえた学生に対応した体系的な教育プログラムを開発する。	良好	

(注)計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
<b>教育方法に関する目標</b> 全学的に授業方法を改善するとともに、学生の自学・自習を支援する学習支援体制を整え、自ら学ぶ意欲を高めるための授業方法を全学的に構築する。		おおむね良好	
1-1-3-1	教育創造開発機構の下、大学教育・教員養成開発センターを中心に、学習サポートシステムを全学的に活用できるよう充実し、各授業における専門的内容の修得と同時に対話・表現力の獲得を通してコミュニケーション力の向上など、学生参加型の多様な授業形態の実現を図る。	おおむね良好	
<b>成績評価に関する目標</b> 成績評価に関する運用システムを開発するとともに、各授業科目の担うべき授業目標とその評価規準を明確にし、学業成果の質を保証できる適正かつ厳格な成績評価を実施する。		おおむね良好	
1-1-4-1	担当教員グループで適切な授業目標と評価規準を設定し、成績結果を教員間で共有するなど、成績評価の厳格化を進め、併せてGPA値の信頼性を高めることにより学習支援と指導のためのGPA制度を充実する。また、公平な評価を保証するため、学生に成績結果の統計的情報を公開する。	おおむね良好	
<b>教育の成果に関する目標</b> 学士課程や大学院課程における教育が、将来的にどう活かされているのか、また活かされることが保障できるよう、継続的に教育の成果について検証を行う。		おおむね良好	
1-1-5-1	PDCAサイクルにおけるチェック機能の役割として、授業アンケートを実施し、授業目標や学生が獲得した成果について点検評価を行うとともに、卒業生及び修了生に対し、大学での教育が一定の経年後にどのように活かされているのかについて追跡調査を実施する。	おおむね良好	
1-1-5-2	現職教員が大学院修了後、学校現場において十分にその成果が発揮できるようにするため、Webや夏季休業時等を活用し、継続的な支援体制を構築する。	おおむね良好	特色ある点
1-1-5-3	修士論文に加えて卒業研究の概要の電子化を進め、広く学内外からの閲覧利用を可能にする。	おおむね良好	
1-1-5-4	大学院生の10%が国内外の学会での発表や学会誌等へ投稿できるよう指導を行う。	おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
<b>教職員の配置に関する目標</b> 第一期中期目標・中期計画実施期間における教育実施体制の問題点を再点検し、より充実した教育を実施するため教職員の再配置を行う。教員養成課程及び現代学芸課程の教育組織の見直しを行う中で、教養教育及び専門教育の実施にふさわしい教員組織を編成する。		おおむね良好	
1-2-1-1	現在の教育学部の規模及び課程を基礎に、愛知県内の出生数の変化や教員養成政策動向等を踏まえ、教育組織及び学生の配置の見直し並びに教員組織の見直しを進め、より効率的・効果的な教職員の配置を行い、教育効果を高める。	おおむね良好	
1-2-1-2	全員担当を基本とする現在の教養教育の実施体制について、教養科目の内容及びグループ体制の再編を行い、教養教育を充実する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
教育組織・教育環境の整備に関する目標 愛知教育大学の特性が一層活かされるための教育組織の整備を進めるとともに、学習活動を支援するため、環境・施設・設備の一層の充実を図り、学習環境を整備する。		おおむね良好	
1-2-2-1	教育実践に深く関わる教員養成系共同大学院博士課程を設置する。	おおむね良好	特色ある点
1-2-2-2	学習サポートシステムを構築するための人的・物的支援環境を整備するとともに、多様な授業形態に対応できる教室等の整備や授業空き時間帯の教室の有効活用を進め、併せて大学院生の研究環境を改善するため、適切な学習スペースの確保を実現する。	おおむね良好	
1-2-2-3	附属図書館のハイブリッド化を一層進めるとともに、大学全体の教育の現代化・高度化にふさわしい施設・設備の改善充実に努める。	おおむね良好	
教育の質的改善のためのシステム等に関する目標 教育の質的改善を図るため、授業改善を推進する実施体制を構築する。		良好	
1-2-3-1	教員間で互いの授業を評価するとともに、学生による授業アンケート内容を再検討し、その結果の教員へのフィードバックを迅速化し、教員はそれをもとに自己評価を行い、より一層の授業改善を進める。そのため、専門性を持って取り組みに専念できる教職員の配置等の支援体制を構築し、FD・SDの推進を図る。また、これらの取組の成果に基づき、大学改革支援のための競争的資金に積極的にチャレンジし、システム改善に役立てる。	良好	
○ 1-2-3-2	北海道教育大学、東京学芸大学及び大阪教育大学との連携を推進し、全国の教員養成教育の諸課題に対応するための機構を設置し、その下に活動拠点としてセンターを置き、全国の教員養成系大学・学部との交流の拠点とする。	良好	優れた点
教育実習の実施に関する目標 教育実践力養成の柱である教育実習の充実のための研究体制を構築し、持続的に教育実習の質的向上を図る。		おおむね良好	
1-2-4-1	教育創造開発機構の下、教育科目等と教育実習の体系化を進め、教育実習の到達目標をより明確にするとともに、教育実習の成果をきめ細かく把握し、教育実践に関わる教育の充実を図るため、事前・事後の指導の充実及び実習時における実習校と連携しての学習支援を強化する。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
学習支援に関する目標 学生が高い学力を習得し、併せて、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク等の社会人としての基盤となる資質・能力を養うため、学習支援を組織化する。		おおむね良好	
1-3-1-1	指導教員制、オフィスアワーを充実するとともに、入学から卒業・就職までのきめ細かい学生への学習支援体制を整備する。特に、学習困難な学生への支援を強化し、退学率の逡減につなげる。	おおむね良好	
1-3-1-2	学生がスムーズに大学生活を踏み出せるように、入学時のオリエンテーション、履修指導及び教員との交流の場などを工夫・充実する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
1-3-1-3	障害のある学生に対する支援のため、バリアフリー化を含む学習環境の整備、介助担当学生の配置等を行う。		おおむね良好	
生活支援に関する目標 女子学生が60%を占める愛知教育大学にあっては、両性の平等を尊重し、すべての学生が健康で安全安心な生活を送れるように学生生活の支援組織の見直しを行う。			おおむね良好	
1-3-2-1	生活相談、ハラスメント相談、健康支援・メンタルヘルス支援、経済的支援、課外活動支援、ボランティア活動支援、及び学生生活上の支援などを全学的・組織的に行う。		おおむね良好	
就職支援に関する目標 入学時から卒業まで一貫して学生の個性に応じた就職支援を行うための方策を充実・改善する。			おおむね良好	
1-3-3-1	全国トップレベルにある教員養成課程新規学卒者の教員就職率を、維持・向上させるために支援策を強化・改善する。		良好	
1-3-3-2	企業や公務員等、学生の広範な進路希望に対応した進路先の開拓及び情報の提供等就職支援策の充実改善を行うとともに、学生のキャリアデザインを含む包括的な就職支援に関する研修を行い、教職員の意識改革を進める。		おおむね良好	
留学生への支援に関する目標 留学生の大学生活に対する様々な要望に応えるとともに、日本での生活及び大学での生活における不安の解消を図るための様々な支援を充実する。			おおむね良好	
1-3-4-1	国際交流センターを充実し、日本語教育を含む学習支援、国際語による授業開講、生活相談・健康支援・メンタルヘルス支援・経済的支援等の生活支援、就職支援などの支援を行う。		おおむね良好	
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			おおむね良好	
愛知教育大学の特性を活かし、それぞれの教員が独創的で優れた研究成果を生み出し、多様な学術研究機能の充実を図り、特に、教育現場が直面する諸問題の解決に寄与できる先進的な研究を推進し、それらの成果を社会へ還元する。			おおむね良好	
2-1-1-1	教員養成と教養教育を二本の柱とする愛知教育大学の特性を活かし、各研究者が多様な学問分野において独創的で優れた研究を行う。		良好	優れた点
2-1-1-2	教育現場が直面する諸問題の解決に寄与するために、教員養成に関わる領域に重点的に取り組み、各種研究プロジェクトを組織し、先進的な研究成果を生み出すことをめざす。		おおむね良好	
2-1-1-3	「愛知教育大学学術情報リポジトリ」、「愛知教育大学研究者総覧システム」及び「愛知教育大学出版会」を通して研究成果を広く社会へ公表するとともに、社会に対する提言・助言等を積極的に行う。		おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
研究環境の整備に関する目標 大講座制の利点が有効に機能するように、全学的見地から研究資金の配分を行う。研究設備等に関しては、その充実に努めるとともに、学内資産の効率的な活用を推進する。		良好	
2-2-1-1	大きな成果が見込まれる研究課題やプロジェクト研究への重点的かつ弾力的な研究資金の配分を行う。現有設備の使用状況を検証し、その整備を行うとともに、研究設備の共同利用を積極的に推進する。また、科学研究費や受託研究費について、申請サポート体制を充実する。	良好	優れた点
研究の質の向上に関する目標 研究成果の自己点検と客観的評価により、研究活動の状況や問題点を把握するとともに、学内外の研究者との連携や交流を推進する。		おおむね良好	
2-2-2-1	個人評価調査票を活用して自己点検を行うとともに、特に優れた研究については、その成果を広く社会に対して発信することで研究を活性化させる。また、研究集会の開催状況、外部資金の受入状況なども積極的に公表する。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		良好	
県内の教育関係機関等との連携協力を維持・発展させるとともに、愛知県の中でも西三河地域を拠点とする国立大学として、幅広い研究分野を有する愛知教育大学の特性を活かした社会貢献を実施し、地域社会の要請に応える。		良好	
3-1-1-1	地域連携センターを軸に、近隣市町村教育委員会との覚書に基づく連携の実績を踏まえ、近隣市町村と新たに包括協定を締結することにより、連携協力を強化する。また、教育委員会との連携による教員研修及び研究指導のための教員派遣を行う。	良好	特色ある点
3-1-1-2	愛知教育大学の特性を活かした公開講座及び市町村等との連携講座などを開催するとともに、学術講演会及びシンポジウムなどを愛知教員養成コンソーシアムの活用や関係団体との連携により開催し、教育研究の成果を社会に還元する。	良好	特色ある点
② 国際化に関する目標		良好	
国際社会に開かれた大学として、国外の高等教育機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受入及び派遣を通してアジア地域をはじめ世界の教育と文化的発展に貢献するなど国際化を積極的に進める。		良好	
3-2-1-1	留学生受入数100人を目標に、広報宣伝を強化し、特に、教育研究基金の充実に図り、海外協定校からの留学生の受入及び派遣数を増やす。	良好	特色ある点
3-2-1-2	国際学術交流協定締結校を協定未締結地域に広げるなど、協定校を増やし、また、協定校との単位互換・ダブルディグリー制度、研究者交流を進める。更に、JICAをはじめとする国際関係機関等との連携により学生や研究者交流を推進し、国際化を進める。	良好	優れた点
3-2-1-3	名古屋大学と三重大学等と連携してグローバル人材の育成に取り組む。	おおむね良好	



## 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>第2期中期目標期間においては、北海道教育大学（H）、愛知教育大学（A）、東京学芸大学（T）及び大阪教育大学（O）の4大学連携により、全国の教員養成の諸課題に対応するための教員養成開発連携機構を設置し、全国の教員養成系大学・学部との交流の拠点とするHATOプロジェクトを遂行する計画を進めている。4大学による教員養成開発連携機構を設立し、各大学には教員養成開発連携センターを設置し、3部門・全16プロジェクトの事業を遂行している。各大学の教育研究の特性を活かして推進する先導的実践プログラム、特別プロジェクトでは、愛知教育大学が中心となる活動拠点として理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト、特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト、外国人児童生徒学習支援プロジェクト及び教員の魅力を探るプロジェクトを実施している。理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクトでは、近隣の市町村への出前授業や4大学による科学・ものづくりフェスタを開催するなど、コンソーシアムの設立に取り組んでいる。</p>
-----	--